科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
110033	XXX1110033	2	後期	国際学部国際文化学科	基礎	選択	１年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	１年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	基礎	選択	２年
心理と行動	伊村　知子			情報文化学部情報システム学科経営コース(26 年度以降)	基礎	選択	１年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26 年度以降)	基礎	選択	１年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25 年度)	基礎	選択	２年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25 年度)	基礎	選択	２年
				情報文化学部情報システム学科(24 年度以前)	基礎	選択	２年

授業目的

こころへの関心や期待が高まる一方で、心理学に対して偏ったイメージが持たれることがある。この講義では、心理学の全体像について概説するとともに、「人間の行動や心のはたらきの一般法則」について学ぶ。また、講義中に与える課題に取り組みながら、「心とは何か」、「心を生み出す身体のしくみとはどんなものか」、「人間の心のはたらきにはどんな特徴があるのか」といった問題について考える。
ディプロマポリシーとの関連：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。

各回毎の授業内容

第１回
【授】心理学とは
　心理学にはどんな分野があるかを概観し、現代の心理学の基本的な考え方について理解する。
【前・後】事前学習（2 時間）：心理学に対する印象について考えてくる。
　事後学習（2 時間）：授業後に心理学に対する印象は変化したかについて考える。

第２回
【授】心と行動
　人間を含む動物が見せる行動にはどのようなものがあるか。反射や本能行動から習得的な行動、思考等の高次な行動について理解する。
【前・後】事前学習（2 時間）：生物が見せる行動で最も単純なものは何かについて考えてくる。
　事後学習（2 時間）：日常の行動のうち、反射や本能行動、習得的な行動の例を考える。

第３回
【授】心の発達
　人間の行動や心の発達には、生得的（遺伝的）要因と環境的（経験的）要因の両方が影響し合っていることを学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：自分自身の行動のうち、経験により生じた行動と成熟により生じた行動の例について考えてくる。
　事後学習（30 分）：初期学習が生物の行動に及ぼす影響について考察する。

第４回
【授】学習
　学習とは、行動が経験により比較的永続的に変容することと定義される。この授業では、学習の一般原理、さらには運動技能の学習、社会的な学習の過程について学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：自分自身の行動のうち、学習により習得された行動の例について考えてくる。
　事後学習（2 時間）：古典的条件づけ、オペラント条件づけの例を考えること。

第５回
【授】記憶
　記憶の機能と、それらを実証するための実験手法について学ぶとともに、記憶と脳の関係について理解する。
【前・後】事前学習（2 時間）：自分自身を振り返り、最も古い記憶内容を想い出してくる。
　事後学習（2 時間）：エピソード記憶・意味記憶、手続き的記憶の例を考える。

第６回
【授】視知覚①
　人間の目の構造、色や明るさや形を知覚するしくみについて学ぶことにより、私たちの知覚は外界のコピーでなく、能動的な過程であることを理解する。
【前・後】事前学習（2 時間）：2 つの図を観察し何が見えるかを考えてくる。
　事後学習（2 時間）：人間の目とカメラの構造を比較し、共通点と相違点について考察する。

第７回
【授】視知覚②
　錯視、立体視、動きを知覚するしくみと、知識や先行経験が知覚に及ぼす影響について学ぶこよにより、私たちの知覚は外界のコピーではなく、能動的な過程であることを理解する。
【前・後】事前学習（2 時間）：錯視図を観察してくること。
　事後学習（2 時間）：錯視の現象を生かしたデザインについて考える。

第８回
【授】聴覚・触覚
　音を聴くしくみとして聴覚器官の構造、言語音の知覚、音源定位について学ぶ。また、触覚を感じるしくみとして皮膚の受容器と大脳皮質の一次体性感覚野の構造についても学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：聴覚や触覚によって得られる情報にはどのようなものがあるかについて考えてくる。
　事後学習（30 分）：触覚 2 点閾の実験をおこない結果について考察する。

第９回
【授】思考
　人間を含む動物は、絶えず変化する環境に対応するため、問題解決や推論をおこなう。問題解決の過程にはどのようなものがあり、それらは生後どのように発達するのかについて学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：不測の事態や困難に対する対処行動の例について考えてくる。
　事後学習（2 時間）：三段論法を用いた文章を作成する。

第１０回
【授】思考・言語
　人間の思考の特徴を人工言語との比較から学ぶとともに、人間の特徴である言語による思考、意思伝達とその基盤となる心のはたらきについて学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：人工知能とは何かについて調べてくる。
　事後学習（2 時間）：言語以外の意思伝達手段とその発達過程について考察する。

第１１回
【授】言語・動機づけ・情動
　前半は、人間の言語理解の特徴と、言語が知覚・認知に及ぼす影響について学ぶ。後半は、私たちの行動を方向づける心のはたらきとして、動機づけ・情動について学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：自分自身の経験から、成功や失敗の原因を何に帰属しがちか考えてくる。
　事後学習（2 時間）：言語相対化仮説、ジェームズ=ランゲ説について説明できるようにしておく。

第１２回
【授】個人差
　これまでの授業では人間全体に共通する心のはたらきを扱ってきたが、この授業では知能と性格の個人差について学ぶ。知能や性格の個人差への関心の歴史と、知能や性格の測定法について理解を深める。
【前・後】事前学習（2 時間）：知能指数について調べてくる。
　事後学習（2 時間）：人類最初の知能検査は何か。また、その目的について説明する。

第１３回
【授】社会行動
　他者の存在によって、私たちの行動はどのように変化するのだろうか。社会行動の発達と自我の形成過程、他者の心のはたらきの理解、他者の存在が私たちの行動に及ぼす影響、対人魅力に影響を及ぼす要因について学ぶ。
【前・後】事前学習（2 時間）：他者の存在が自分の行動に影響を及ぼす例について考えてくる。
　事後学習（2 時間）：心の理論とそれを検証するための実験について説明する。

第１４回
【授】心理学史
　心理学は 1879 年に誕生した比較的新しい学問分野であり、その後も様々な学問分野とかかわりを持ちながら発展してきた学際的な学問分野である。古代から近代、1879 年の実験心理学の成立、そしてその後現代に至るまでの心の研究の歴史について概観する。
【前・後】事前学習（2 時間）：これまでの授業内容を振り返り、心理学とはどのような学問かについて考えてくる。
　事後学習（2 時間）：第 1 回から第 13 回までの授業内容を歴史的背景を踏まえて理解する。

第１５回
【授】まとめ
　第 1 回から第 14 回の授業の内容を復習し、「心とは何か」、「心を生み出す身体のしくみとはどんなものか」、「人間の心のはたらきにはどんな特徴があるのか」といった問題について考える。
【前・後】事前学習（2 時間）：第 1 回から第 14 回までの授業内容を復習してくる。
　事前学習（2 時間）：授業中に与えた課題について考察する。

第１６回
【授】定期試験

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							90
小テスト・授業内レポート							10
宿題・授業外レポート							0
授業態度・授業への参加							0
成果発表（口頭・実技）							0
演習							0
その他							0

・定期試験は、持ち込み不可とする。
・授業中に実施する課題(10%)と定期試験(90%)により、総合的に評価する。
・課題に対するフィードバックの方法：課題に対する質問や解答例を次回の授業で公表し、解説をおこなう。

教科書参考書

特に教科書は指定せず、必要な資料は授業中に配布する。

受講に当たっての留意事項

特になし。

学習到達目標

・心理学に関する基礎的な知識を身につけること。
・日常の行動を心理学の視点から分析すること。

JABEE

特になし。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習